

いじめをなくす取り組み

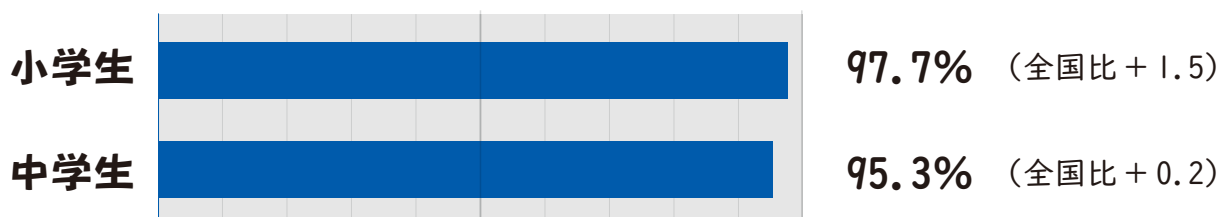
～みんなで作る あたたかい学校・相生のまち～

相生市では、児童生徒の意識向上を目指し、いじめをなくす取り組みを行っています。家庭・学校・地域が力を合わせ、「みんなで作る あたたかい学校・相生のまち」の実現に向けて、取り組んでいます。

令和8年度 全国学力・学習状況調査より

Q.「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

A.「思う」「どちらかといえば思う」



令和8年度全国学力・学習調査（市内小学6年生、中学3年生）より、いじめはどんな理由があってもいけないことと「思う」「どちらかといえば思う」と答えた小学生は97.7%（全国比+1.5ポイント）、中学生は95.3%（全国比+0.2ポイント）で、いずれも全国平均を上回っていました。さらに児童生徒たちの意識向上を目指し、いじめをなくす取り組みを続けていきます。

教育委員会の取り組み

いじめ防止サミットを通して、子どもたちの声を生かす

市内小中校の児童生徒代表者が集まり、いじめについて考える「相生市いじめ防止サミット」を令和6年度から開催しています。令和8年度はいじめ防止サミットでは、「いじめ防止宣言」を子どもたち自身が作り上げました。今後、児童生徒による主体的な「いじめ防止」の取り組みを展開していきます。



相生市いじめ防止サミット

教職員への研修を通して、いじめに気付く力を高める

いじめの未然防止と早期発見・早期対応につなげるため、幼稚園、小学校、中学校の全教職員を対象とした研修を令和6年度から実施しています。研修では、いじめに気づくための視点や、組織的な対応について実践的に学び、個々の教職員の力を高めるだけでなく、組織的な気付きを促し、チーム学校として問題に取り組むことで、いじめの見落としや判断の誤りを防ぐ体制づくりを進めています。



相生市教職員研修

検証委員会で取り組みを振り返り、よりよい対策につなげる

各学校で行っているいじめ防止の取り組みをより実効性のあるものにしていくため、弁護士などで構成された「いじめ防止対策検証委員会」を開催しています。学校とともに教育委員会としても定期的・継続的に状況を見つめ、いじめをなくす取り組みの充実につなげていきます。

各校の取組み

1 子どもたちの自身でいじめをなくそうとする態度を育てる

各校で、子どもたちが自分たちでいじめ防止に取り組む活動をしています。

「いじめをなくすために何に取り組むか」を児童生徒一人ひとりが考え、全校児童集会や学級会において話し合いました。また、各校からそれらの意見を持ち寄り、子どもたち主体の相生市いじめ防止宣言案となるよう、相生市いじめ防止サミットで話し合いました。



いじめ防止の取組みを話し合うたてわり活動



いじめ防止について話し合う学級会

2 授業を通して、相手を尊重する心と道徳的实践力を育てる

道徳教育、人権教育等を通していじめをしない、許さない児童生徒を育成しています。

各学校では、道徳の授業、人権の授業で「いじめ」を取り上げ、授業を行っています。子どもたちが「いじめはよくないと頭では分かっている、実際の行動に移すのは難しいこと」「知らないうちに自分がいじめをしてしまったり、傍観してしまったりしていること」に気付けるよう発達段階に応じて授業をしています。



道徳の授業（小学校）



道徳の授業（中学校）

3 つながり合い、思いやりの心を育てる

学年をこえた交流や体験活動を通して、お互いを知り、支え合う関係づくりを大切にしています。

たてわり活動を中心に「周りの人をつなぎ、お互いを知る」ことを大切にし、顔合わせ集会や運動会でのたてわり種目、たてわりそうじ、七夕集会などを重ねる中で児童の仲が深まっています。さらに、子どもたち自身が目的を考えた「たてわり集会」や、相手を大切にする気持ちを込めた「いじめ防止カルタ」づくり、児童と教職員がともに取り組む内容を書き込んだ「学校の花」の掲示など、交流と体験を通して思いやりの心を育てています。



心を1つにたてわりそうじ



児童が作成したいじめ防止カルタ

相生市の児童生徒の学力と体力に関する調査結果

●「全国学力・学習状況調査」の結果と分析

■ 調査の目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てる。

■ 調査結果

(小学6年生)

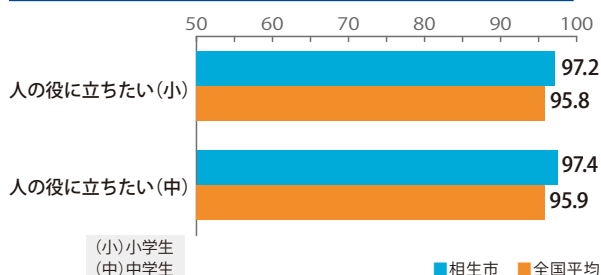
- ・国語は、全国平均をやや上回る
- ・算数は、全国平均をやや下回る

(中学3年生)

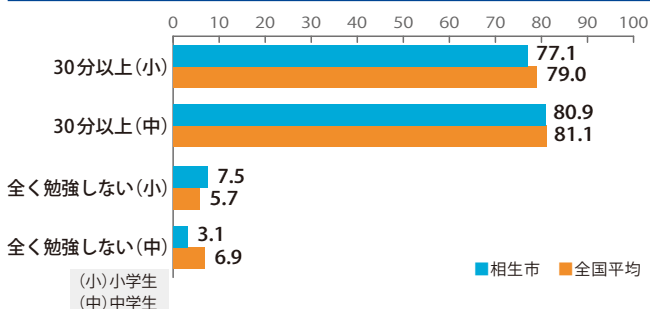
- ・国語は、全国平均をやや下回る
- ・数学は、全国平均並
- ・英語は、全国平均をやや上回る

■ 児童生徒の生活習慣・生活規律の状況

「人の役に立つ人間になりたい」と答えた割合



学校の授業時間以外の勉強に取り組んでいる時間

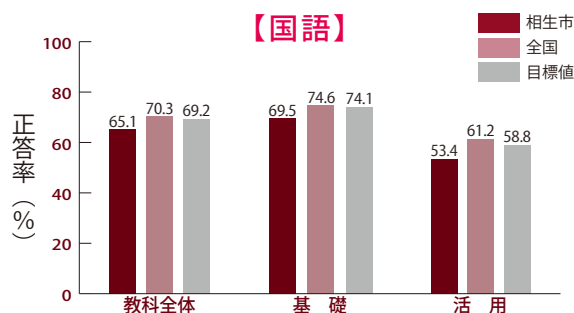


人の役に立ちたいと考える児童生徒の割合は小中学校ともに高く、思いやりや社会に貢献しようとする意識が育っています。一方で、小学校段階での家庭学習の習慣には課題が見られます。今後も学校・家庭・地域が連携し、家庭での学習習慣や学ぶ意欲の向上に向けた働きかけを行います。

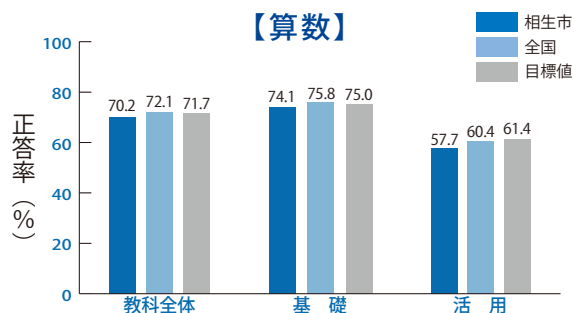
●「標準学力調査」の結果と分析

平成24年度から市独自で、小学4・5年生と中学1・2年生を対象に東京書籍の「標準学力調査」を活用した「ぐんぐん学力アップ事業」を実施しています。全国平均と目標値、相生市の3つの比較ができるようになっています。令和8年度の小学校における調査結果と分析、および中学校の調査結果について、以下に掲載します。

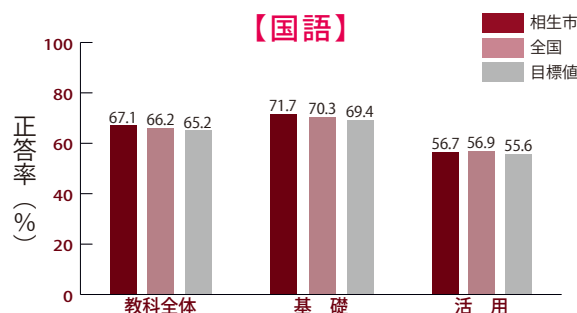
小学4年生



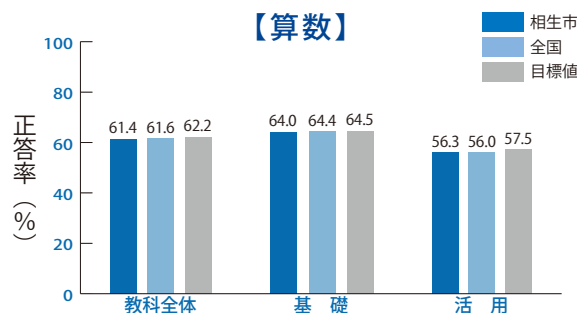
【算数】



小学5年生



【算数】

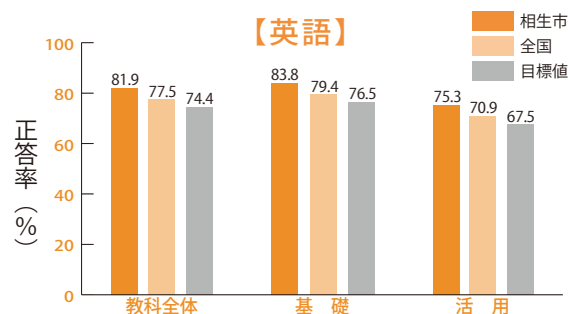
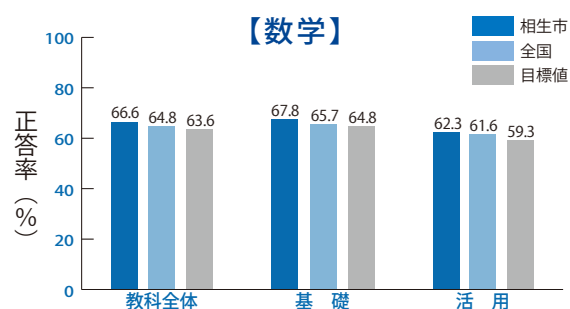
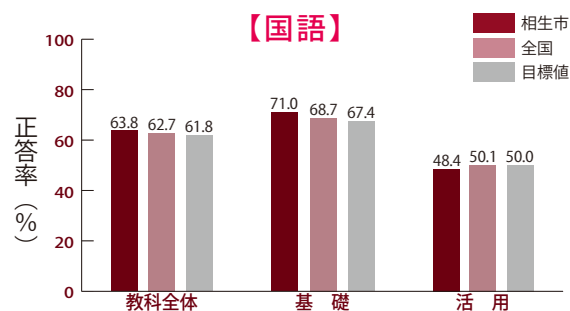


■ 分析と今後の指導

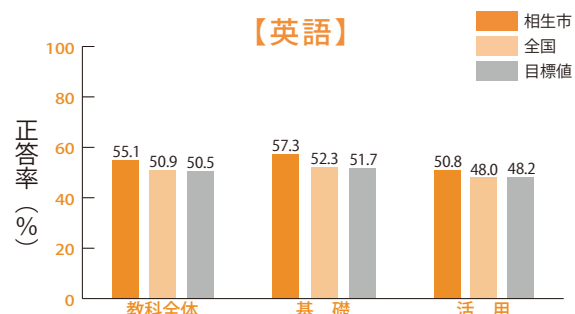
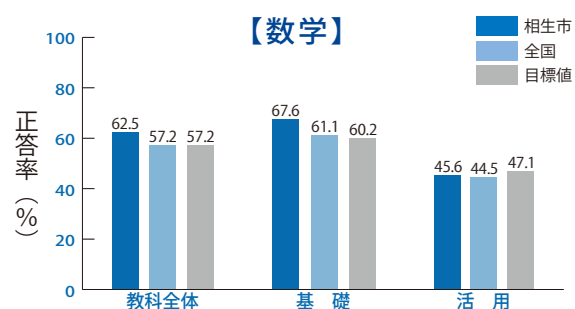
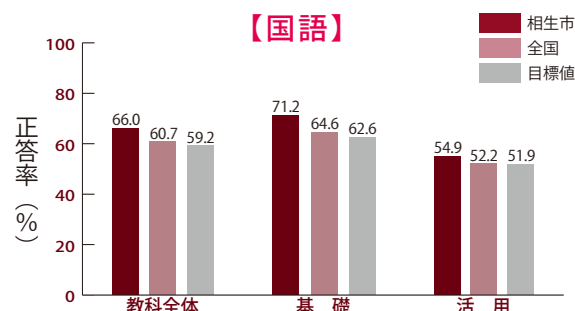
国語科では、小4・5年生ともに「要約力」や「文章を構成して書く力」に課題があり、これらを高める指導を強化します。算数科では、基礎・活用ともにおおむね全国平均・目標値に近い水準ですが、活用面にやや課題があり、計算力とあわせて活用の力を高める指導を続けていきます。



中学1年生



中学2年生



■ 分析と今後の指導

数学・英語は全国平均をやや上回る結果を維持しています。数学では計算過程を数理的に説明する力、英語では事実を読み取り文脈を構成する力に課題が見られ、これらを高める指導を行っています。国語では、話し手や書き手の意図を正確に捉え、自分の考えを明確に伝える文章を書く力を高める指導に取り組めます。



● 「全国体力・運動能力調査」の結果と分析

相生市では、小中学生を対象とした「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を毎年実施しており、全国的傾向と比較分析を行っています。相生市の児童生徒の体力傾向としては、シャトルラン(持久走)、反復横跳び、立ち幅跳びなどの項目において全国平均を上回っております。その一方で、長座体前屈(柔軟性)、50m走が全国平均を下回っています。体育授業における多種多様な運動の充実や日常的な運動の機会の確保により、課題の改善に向けた取り組みを進めます。

※下表は全国平均を50として場合の割合による数値

学年	小学5年生		中学2年生	
性別	男子	女子	男子	女子
握力	49.8	49.7	52.0	52.8
上体起こし	49.6	51.2	50.1	51.8
長座体前屈	46.8	47.1	45.6	51.9
反復横跳び	52.2	52.1	50.6	53.3
20mシャトルラン	52.3	53.1	52.0	54.3
50m走	48.9	48.3	49.4	50.9
立ち幅とび	52.2	52.1	50.3	53.6
ソフトボール投げ	50.6	50.2	49.3	50.3